

支援センター名	せきかわ子ども体験活動支援センター		
所在地	〒959-3264	新潟県岩船郡関川村大字上関1285番地	
連絡先	Tel	0254-64-2134	Fax 0254-64-3019
	URL	http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/	

事業の概要とポイント

当村では、平成11年度より、村内小学校の4～5年生を対象に県少年自然の家に宿泊しながら各小学校に通う通学合宿「せきかわチャレンジスクール」を実施している。

この事業の主なねらいは、異なった学校の異年齢集団による協同・共生体験により人間関係づくりのスキルを育成することと、子どもの支援活動を通じて、ボランティアの育成と発掘、活用を図ることである。

関係した学校・団体等の名称

関川村立関小学校・土沢小学校・女川小学校・安角小学校・関川村山の会・体育指導委員
・新潟大学インターンシップ・関川村役場企画観光課・関川村自然管理公社・地域ボランティア・教員住宅在住教職員

地域の現況・特色

活動対象地域の人口は、関川村 7,330 人

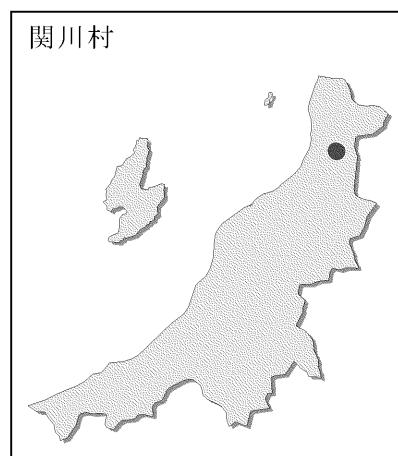
関川村は、県都新潟市の北東約60kmにあり、山形県の置賜地方に隣接している。

村の面積は、299.61km²であり、起伏が激しく、約88パーセントは、山林原野である。

当村は、長い間農業を産業の柱としてきたが現在は、建設業、製造業、サービス業が産業の中心となっている。

農業は、作付面積が減り、従業者数も減り、農業所得は、産業の4番目となっている。

また、平成14年度から子ども体験活動支援センターを立ち上げ、学校と社会教育との連携を図り、子どもたちに多様な体験学習等の機会や場を提供し、地域の教育力を活性化することで、子どもたちの活動の充実を図ってきた。



企画から活動までの経緯

当村では、平成11年度より、村内小学校の4～5年生を対象に新潟県少年自然の家に宿泊をしながら各学校に通う通学合宿「せきかわチャレンジスクール」を実施してきた。

この事業の主なねらいは、異なった学校の異年齢集団による協同・共生体験により人間関係づくりのスキルを育成することである。



事業のリニューアル化：平成14年度から学校週5日制の実施に伴い、地域の教育力の育成がますます重要になってきた。

当村でも青少年事業に地域の教育資源である「ヒト（人材）・コト（活動）・モノ（場や施設）」の発掘、育成、有効活用を図るため、チャレンジスクールを大幅に見直し、合宿場所を県少年自然の家から地元関川村で実施することで地域の施設・地域の人材の活用ができると考え、宿泊場所を変更することで事業のリニューアル化を図った。

事例の展開内容

・宿泊場所等

村内でできるだけお金をかけないで、食事・入浴ができる施設を考えると村民会館（公民館）が一番宿泊場所に適していると考えられるが、これまでに宿泊施設として使った前例がなかった。しかし、教育長の理解を得て実現することができた。村民会館（公民館）には畳50畳の休養室と同じ広さのカーペット敷きの会議室があるので、参加児童34人（男子15人・女子19人）のうち、男子を休養室、女子を会議室に分け3泊の宿泊が可能になった。宿泊にはボランティアの大学生2名と職員1名が対応し、布団一式は、レンタルで調達をした。

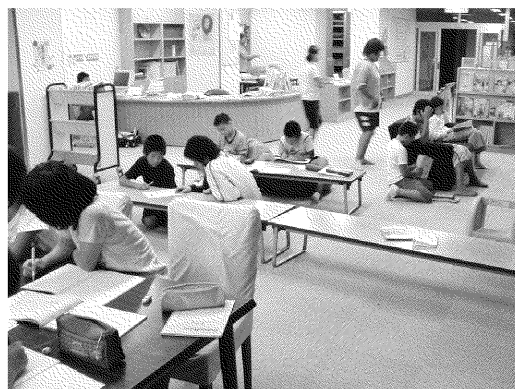
・学習について

半年前にオープンした新しい図書室で夕食前の1時間、毎日自主学習を実施した。

自主学習の時間については、ボランティアの大学生が学習のアドバイスを行い、子どもたちがわからない問題などを積極的に質問をしていた。

・入浴について

村民会館から歩いて5分程度の所に日帰り温泉施設「ゆーむ」で3日間、体験活動終了後に入浴することができた。この施設については、施設の管理者である企画観光課の全面的な協力により利用することができた。



当然、一般利用者の入浴もあるので、入浴時の子どもの管理には、教員や保護者の方に協力してもらった。

・食事について

公民館の調理室で各3回の朝食と夕食の調理を行い、休養室で食事をした。

教育委員会所属の栄養士が指導し、村内の栄養士免許所有者や食生活改善推進員が綿密に打ち合わせを行い、献立の作成、地元食材の調達、食事作りを行ってくれた。食事の後始末については、参加児童の保護者が手伝ってくれた。



・体験活動について

1日目は、レクリエーションも兼ねて廃校で肝試しを行った。

旧沼小学校で実施した肝試しは、スタッフのボランティア大学生に加え、体育指導委員や、地元の青年たちも飛び入りで参加し、様々な思考をこらして行うとともに、違う学校から集まった子どもたちが協力し、打ち解けるまでの時間を短くすることができた。

2日目は、十六夜の月鑑賞会を行った。

隣接する黒川村の胎内天文館の協力を得て、特別に鑑賞会を実施してもらった。

子どもたちは、巨大望遠鏡の説明を真剣に聞き、初めて望遠鏡で月を見る子どもも多く感動している様子が伝わってきた。

3日目は、クライミングボードに挑戦した。

村内の施設「ふれあいどーむ」内にある高さ15メートルのボードを使ってクライミングに挑戦した。

村の山の会会員や体育指導委員が指導を担当し、用具の説明から登り方までわかりやすく説明してくれた。

また、隣接する教員住宅から先生方が応援に駆けつけ、子どもたちを励ましてくれた。

評価

今回のチャレンジスクールは、従来の内容を大幅に変更し実施した。その新たなねらいであった地域の教育資源の有効活用をある程度達成することができたと思っている。

これも他部局や多くの地域の方々からの献身的な協力を得ることで実施できたと感謝している。今後も組織や人的ネットワークの構築を続けていきたいと思う。

執筆者職・氏名：関川村教育委員会生涯学習課 小池毅